

2022年度ひょうご留学生インターンシップ 最終報告

大学コンソーシアムひょうご神戸

1. 参加学生数、受入先数

参加学生数	43名
参加大学数	8校
受入企業・団体数	22社
テーマ・就労体験型	6件/13名
就労体験型	17件/30名

2. 参加者の属性

所属大学	人数	参加学年	人数
芦屋大学	4名	1回生	0名
関西学院大学	10名	2回生	4名
神戸大学	10名	3回生	23名
神戸学院大学	5名	4回生	2名
神戸芸術工科大学	2名	修士1年生	11名
神戸国際大学	4名	修士2年生	3名
神戸親和女子大学	2名	合計	43名
流通科学大学	6名		
合計	43名		

性別	人数	出身国・地域	人数
男	16名	中国	22名
女	27名	韓国	6名
合計	43名	ベトナム	6名
		インドネシア	5名
		台湾	2名
		ロシア	1名
		ネパール	1名
		合計	43名

3. 受入先 は新規受入企業

受入先		人数
テーマ・就労体験型	株式会社 TAT	3
	株式会社 JTB	1
	豊開発 株式会社	3
	センコー 株式会社	3
	白鶴酒造 株式会社	2
	株式会社 奥谷金網製作所	1
6社		13
就労体験型	株式会社 奥谷金網製作所	1
	株式会社 ユニックス	1
	バンドー化学 株式会社	1
	株式会社 千代田精機	1
	株式会社 大月真珠	4
	エパオン 株式会社	4
	情報セキュリティ 株式会社	4
	株式会社 みなと銀行	2
	株式会社 三洋航空サービス	1
	株式会社 ブレックス	3
	医療法人社団 星晶会	1
	一般社団法人 福祉心話会	2
	株式会社 ECC	1
	株式会社 学生情報センター	1
	公益財団法人 兵庫県国際交流協会	1
	株式会社 バオスアイティーホールディングス	1
	一般社団法人 大学コンソーシアムひょうご神戸	1
17社		30
計22社 (*1社両型で実施)		43

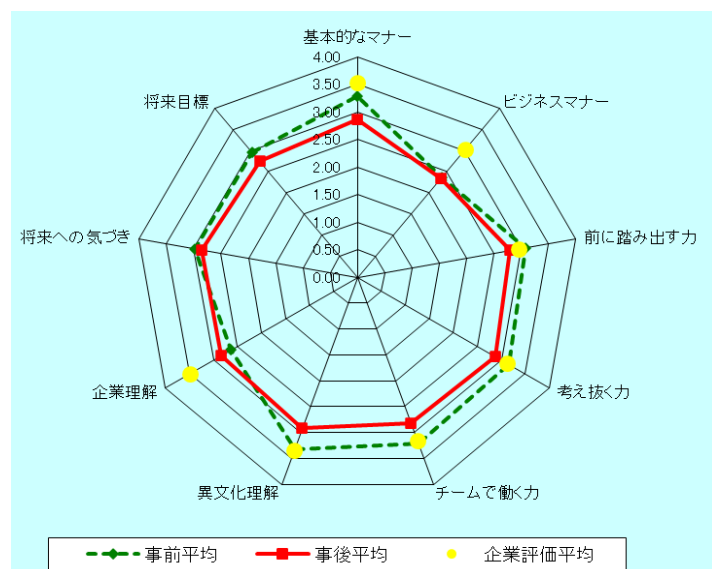
 は2022年度新規受入企業

【参考:これまでの参加人数推移等】

	2009年度 (試行プログラム)	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
実施時期	2009/2~3	2010/7~10	2011/7~10	2012/7~10	2013/6~10	2014/6~10	2015/6~10	2016/6~10	2017/6~10	2018/6~10	2019/6~9	2020/6~9	2021/6-9*	2022/6-9*
参加学生数	18名	46名	43名	56名	51名	47名	42名	56名	36名	40名	34名	19名	30名	43名
参加大学数	8校	11校	12校	16校	15校	14校	11校	12校	9校	10校	10校	7校	9校	8校
受入企業・団体数	7社	16社	21社	22社	24社	24社	25社	26社	20社	24社	22社	10社	13社	22社
インターンシップ件数	7件	17件	21件	22件	24件	25件	26件	27件	20件	24件	22件	11社	13社	22社
テーマ型	1件/5名	6件/19名	8件/19名	10件/30名	6件/12名	2件/4名	3件/5名	2件/5名	-	-	-	-	-	-
テーマ・就労体験型	-	-	-	-	-	-	4件/9名	3件/7名	5件/9名	6件/8名	3件/5名	3件/5名	9件/21名	6件/13名
就労体験型	6件/13名	11件/27名	13件/24名	12件/26名	18件/39名	23件/43名	19件/28名	22件/44名	15件/27名	18件/32名	19件/29名	8件/14名	5件/9名	17件/30名

3. プログラムの成果（外国人留学生）

◇参加学生の自己評価（事前・事後）



◇参加学生アンケートより

* 日本企業や日本で働くことについて参加前と比較して、

⇒理解できるようになった

・やや理解できるようになった（100%）

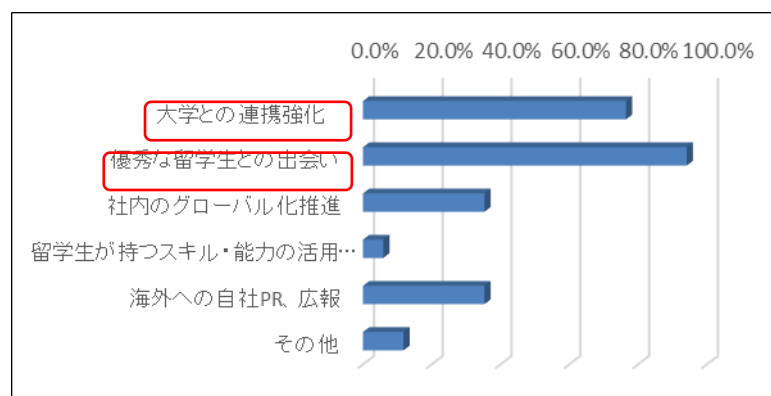
* 留学生インターンシップに参加して良かった点

- ・日本企業・団体を知ることができた（92%）
- ・社会人として必要なマナーや敬語が学べた（62%）
- ・今後の学業や就職に向けての意欲が高まった（54%）
- ・他大学の留学生と知り合うことができた（51%）
- ・自分自身の適性や課題を知ることができた（35%）
- ・社会人と知り合うことができた（35%）

4. プログラムの成果（受入企業）

◇受入企業・団体のアンケートより

・留学生インターンシップ受け入れの理由・メリットと考えている点は？



【その他】

- ・社内に向けた受け入れ態勢の意識づけ
- ・社内の多様性情勢、ダイバーシティの推進
- ・社内の新たな刺激、教育機会

・上記の項目について今回の留学生インターンシップは効果があったか？⇒効果があった（100%）

* 昨年同様、留学生を受け入れることで海外事業部員は大いに刺激を受けることができました。海外取引先との商談を重ねることで、先方にも当社のグローバル事業に対する取り組み姿勢も示すことができたと感じています。昨年のインターンシップ実習に参加してくれた学生が選考に来てくれ、内定に繋がりました。

* 実習報告会で名刺交換をした大学からご連絡をいただき、弊社にお越しいただいた。今後連絡を取り両者のメリットにつなげたい。

* 会社としてこういう人材も採用していくんだというメッセージを発信できた。留学生や新卒採用に関する受け入れ態勢が徐々に意識づけられてきた。

* 弊社の文化にいい意味で染まっていない学生からの意見は、新たな風を吹き込んでくれるから。

* 相互に、情報の共有ができた。（現役の学生さんが何を求めているのか、外国の方がどれほど熱心に日本企業に興味を持ってるか等）。

* 直接の関連性がない分野を先行されている学生を受け入れ、自分たちも勉強になることが多かった。

・次回以降のインターンシップ受け入れについて

⇒受け入れる予定、または、条件が合えば受け入れたい（95%）